

# GOVERNOR's Monthly Letter



インスピレーションになるう

国際ロータリー 第2580地区ガバナー月信 vol.5

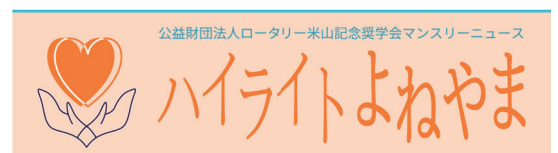
2018年11月号

## 資料

- 2P      ロータリー文庫通信 373号
- 3P      コーディネーター NEWS 11月号
- 4~5P   ハイライトよねやま 223号



コーディネーター  
**NEWS**





2018年10月25日

ガバナー 各位

ロータリー文庫運営委員会  
委員長 真下 和男

拝啓 新秋の候、貴ガバナーはじめスタッフの皆様には、益々ご健勝にてご活躍のこととお慶び申し上げます。また、常々ロータリー文庫へのご協力を心から感謝いたしております。

今回は、下記7点をご紹介しますので「ガバナー月信」にご掲載くださるようお願いいたします。

敬具

## 文庫通信 [373]

ロータリー文庫通信373号 2018年10月 日本のロータリーの歴史より

ロータリー文庫は日本のロータリー50周年記念事業の一つとして、1971年11月に公開された皆様の資料室です。日本のロータリーは2020年に100周年を迎えます。

今回は1920年東京ロータリークラブ発会から約50年間の日本のロータリーの歴史の中でいくつかの資料をご紹介します。特にロータリーの友、ロータリー文庫、米山記念奨学会については発足当時を記述した資料を選びました。これらの中から日本のロータリーの歴史の新たな発見があり、皆様の今後のロータリーライフに生かされることを願います。

書名	著者 / 出版社	発行年	頁	
温故知新 ロータリーの今昔	遠藤健三 D.263	1987	7P	※
<座談会>ロータリー文庫について	- ロータリー文庫	1987	27P	※
ロータリー米山記念奨学会史〈第一章〉	- 米山記念奨学会	1992	31P	※
日本ロータリー史(1920~1970)	直木太一郎 -	1971	37P	※
日本ロータリー再建の頃	ジョージ R.ミーンズ(元 RI 事務総長) -	友1976 /9月~	27P	※
満州におけるロータリー運動の展望	佐々木孝三郎 -		19P	※
朝鮮に於けるロータリーと 第10年次大会を回顧して	佐々木孝三郎 -		11P	※

上記 ※印はデジタル化されている資料です。

\* 資料の検索は文庫ホームページから <http://www.rotary-bunko.gr.jp>

ロータリー文庫通信

ロータリー文庫の資料から、毎月資料を厳選して発信しています。  
[詳細はこちらへ](#)

ロータリー文庫検索

2万点余りある資料を検索出来ます。PDFのみの検索もできます。  
[詳細はこちらへ](#)

ロータリー文庫について

・文庫について  
・HP利用方法  
・運営委員会から

トップページには三つの窓があります。上記矢印「HP利用方法」をクリックしていただきますと、「ホームページの利用方法」というPDFが表示されます。

ここには1999年2月ホームページ開設以来、データベース化された全ての資料の検索方法が書かれています。

尚、過去の文庫通信一覧については、左窓の「詳細はこちらへ」をクリックしてください。

Rotary  
Zones 1 & 2 & 3コーディネーター  
NEWS

2018年11月号

発行：Zones 1 & 2 & 3  
ロータリーコーディネーター  
ロータリー公共イメージコーディネーター

## ■「マイロータリーを活かす」

第2ゾーンの公共イメージ・コーディネーター就任に当たって、この3月にエバンストンで3日間の研修を受けた。世界の各地から44名のロータリーコーディネーター、ロータリー財団地域コーディネーター、公共イメージコーディネーターが同時に参加した。朝の9時から夕方までのハードな研修であったが、一つ強く印象に残っていることがある。研修の流れはガバナーエレクトの国際協議会でお馴染みの全体会と分科会が交互に行われるものであった。

その分科会の各セッションで扱う様々な設問に対してファシリテーターは必ず導入部分で「この問題の解決にあたって、リソースに何がありませんか？」と異口同音に語ったのである。以来、私が所属する第2610地区のRLIのセッションでその質問を用いてみた。確かに問題解決にあたってリソースを意識することは基本的かつ大切なことと思われる。参加者の挙げるリソースの中に、ガバナー、パストガバナー、RI理事、元RI理事、クラブ会長、元クラブ会長、ガバナー補佐、地区委員長などの人的リソースがあったが、全ての参加者が挙げたのはマイロータリーであった。それ位世界のロータリーにおいてマイロータリーは情報ツールとして認知されている。

しかるに日本においては決して有効に活用されているとは言えない。残念ながら私が所属する第2610地区は10%（今年7月の登録率）を切っている。その中であって40%を超える地区が4地区存在する。高い順に挙げると第2530地区（48.95%）、第2660地区（46.94%）、第2750地区（43.48%）、第2820地区（40.24%）である。因みに、バリー・ラシン会長は登録率60%を目標として掲げられている。

今、ロータリーは以下の3つの質問に答えることが求められている。「ロータリーとは何か」、「ロータリーは他の団体とどこが違うのか」、「ロータリーはなぜ必要なのか」である。

どれもロータリーの存在理由を明らかにする根源的な問いかけである。一見難しく思える問いであるが、マイロータリーを覗いてみると一応答えらしきものが浮かんでくるから不思議である。会員登録率アップに向けてガバナー始め地区指導者の一層のご理解と推進をお願いする次第である。

第2ゾーン ロータリー公共イメージコーディネーター 柳生好春（野々市RC）

## ■「BE THE INSPIRATION」

本年度、バリー・ラシンRI会長は会長テーマとしてBE THE INSPIRATION（インスピレーションになろう）を掲げられました。世界大会の帰路、成田空港で見たのは下の写真です。「インスピレーションになろう」は日本語として理解しにくいですが、既に、いろんなところで使われていることがわかりました。

あわせて、次のとおり新ビジョン声明が発表されました。「私たちロータリアンは、世界で、地域社会で、そして自分自身の中で、持続可能な良い変化を生むために、人びとが手を取り合って行動する世界を目指しています」

ロータリーは組織でありますから、企業体と同様に理念、目的、目標があります。ロータリーの目標は戦略計画であります。

- 1 戦略計画には、根幹をなす、ミッション・ビジョン・バリューがあります。
- 2 新ビジョンは戦略計画において、ロータリーが未来に実現しようとする、なりたい、ありたい姿です。
- 3 ミッション(任務)は、私たちロータリアンは、世界で、地域社会で、そして自分自身の中で、持続可能な良い変化を生むために

- 4 バリュー(共通価値観) 人びとが手を取り合って行動する世界を目指しています。

以上のように分けて考えたほうが理解し易いと思いますがどうでしょうか

持続可能な良い変化については、イアン H. S. ライズリー前RI会長の言葉が参考になります。

持続可能な奉仕とは、ロータリーの直接的な参加が終了した後も、その活動が長期的に良い影響を与え続けることを意味します。ポリオを撲滅することは、持続可能な奉仕の中で究極のものです。

新ビジョンを理解し戦略計画を持っていることは、変化に対応し、未来の計画を立てる上で大変重要です。クラブ、地区がロータリーの戦略計画に沿った目標を立てそれを推進していくことが会員の積極性、満足度を高める事になります。



第2ゾーン ロータリーコーディネーター補佐 劔田廣喜  
(高山中央RC)

(写真の説明)

Inspiration of JAPANの意味は、日本のおもてなしの心とか、礼儀正しいサービスとか、先進の技術とか、そういう日本の良さを強調したいようです。特に海外では「ANA」だけだと、どこの国の会社か分からない人もいるので、日本を強調したいようです。

公益財団法人ロータリー米山記念奨学会マンスリーニュース

2018.10.12



## ハイライトよねやま

Vol.223

10月は  
米山月間

## 台湾米山学友会から災害義援金が届きました

9月上旬、日本列島は台風21号と北海道胆振東部地震に相次いで見舞われ、各被災地のインフラは大きな打撃を受けました。台湾米山学友会では9月8日の役員会にて、全会一致で募金活動を決定。約3週間で28万6,500元（約105万円）を集めました。この義援金は、当会を経

由して、第2660地区と第2510地区に送られる予定です。同学友会の呉憲璋理事長は「今回の台風と地震による被害に我々は皆、大変驚き、直ちに募金を開始しました。台湾米山会一同、一日も早い被災地の再建と復興を心より祈っております」とのメッセージを寄せてくれました。

## よねやま親善大使の紹介DVDが完成

今年7月に任命された第3代よねやま親善大使の紹介動画と、それを収録したDVDが完成しました。動画は、当会ホームページの『米山奨学会紹介ビデオ』のページから視聴できます。また、DVDをご希望の方には無料でお送りします。



すでにさまざまな地区の米山記念奨学セミナーなどに、よねやま親善大使をスピーカーとしてお招きいただき、ご好評を得ています。

よねやま親善大使の招へいをご希望の際は、米山記念奨学会事務局・広報担当までご連絡ください。

## 寄付金速報 — 米山月間へのご協力をお願いします —

9月までの寄付金は前年同期と比べて4.6%減（普通寄付金:0.06%減、特別寄付金:9.9%減）約1,850万円の減少となりました。

前年同期は、当財団設立50周年の記念寄付を多くいただいていたために上記の減少額となりましたが、7月からの累計額としては2014～

2016年度並みで、順調に推移しております。皆さまからのご寄付に深く感謝申し上げます。

10月は米山月間です。日本のロータリーが作り育てた独自の米山記念奨学事業を、引き続きご支援賜りますよう、よろしく願いいたします。

## 「紺綬褒章」の公益団体認定を受けました

このたび、当会は内閣府賞勲局より、公益のために私財を寄付し功績顕著なる方々へ授与される「紺綬褒章」の公益団体認定を受けました（平成30年9月12日付）。これにより、本年9月12日以降、個人では500万円以上、法人・団体等は1,000万円以上を当会にご寄付いただき、定められた条件を満たす場合に、紺綬褒章授与申請の対象となります。

ご寄付を複数回に分けて分納される場合も、あらかじめお申し出をいただいた場合には、申請の対象となります（分納期限の制限はございません）。詳しくは米山記念奨学会事務局までお問い合わせください。

※認定日（平成30年9月12日）以前のご寄付については申請の対象外です。分納分に含めることもいたしかねます。何とぞご了承ください

## 4年目を迎えた山の小学校支援 — 上海 —

上海を拠点とする中国米山学友会が、甘肅省臨洮県の苟家山小学校へ奉仕活動を実施しました。同県県長を務めていた学友、柴生芳さんの逝去をきっかけに始まった同校への支援も今年で4年目。これまでに、図書室やパソコン、浄水設備の寄贈などを行っています。

今年は9月2～3日に向け、劉京榕前会長、



楊永平副会長、周峰幹事の3人が遠路はるばる山岳地帯にある同校を訪問し、先生から子どもたちの日常をヒアリングしたり、子どもたちと遊びながら交流したほか、各学年から選抜された前期期末試験優秀者計18人の児童に奨学金を手渡しました。加えて、難病で闘病中の子どもへ特別支援金を授与しました。平日は教師として、週末は自宅に戻って畑仕事と、休む間もなく働く先生方にも保温マグボトルをプレゼントしました。

今後、同学友会では、10月でも最低気温が0℃以下となる冬季の暖房設備や、土砂崩れによってたびたび寸断される道路の問題について検討し、子どもたちの教育環境をさらに整えていきたい、と話しています。

## 交流を通じて深める“実感と理解” — 第2590地区 —

4月採用の米山奨学生にとって、約半年が過ぎました。この間、各地区では、奨学生に日本文化やロータリーへの理解を深めてもらおうと、地区米山記念奨学委員会や学友会の主催でさまざまなイベントが企画されています。

第2590地区（神奈川県横浜市・川崎市）では9月1日、恒例の日帰りバス旅行を実施。米山奨学生や学友、世話クラブのカウンセラーや会長など、総勢約120人が参加して、国営ひたち海浜公園の散策とメロン狩りを楽しみました。同地区は1995年度以降、ほぼ毎年、個人平均寄付額全国1位で、会員に占める特別寄付者の割合も全国4位の高さですが、「このような地道な交流の積み重ねが当地区の寄付文化を支えています。バス旅行にはカウンセラー以外

のロータリアンやガバナー補佐にも多数ご参加いただき、奨学生と一日ゆっくり過ごして米山記念奨学事業を実感しながら、さらに理解を深めていただいています」と、同地区米山記念奨学委員長の一樂祥子氏は語ります。また、実行担当の地区米山学友委員長 楠美憲輔氏も「この事業の目的は人材育成であり、寄付はそのための“生みの親”です。今後は学友の育成面にも力を入れて、良い循環をつくっていきたい」と話してくださいました。



～ 海外米山学友会総会のご案内 ～

**韓国** 2018年11月17日(土) 17:00～  
会場 ソウルパシフィックホテル 2階 南山ホール  
申込 yoneyama@hanmail.net へ(締切:10月31日)

【その他 日程確定分】

**マレーシア:**  
2019年2月24日(日)  
**ミャンマー:**  
2019年3月3日(日)

**台湾** 2018年12月1日(土) 受付14:30～  
(総会15:00～、懇親会18:00～)

会場 サンライズゴルフクラブ(桃園揚昇高爾夫球場)、申込 rotary\_yoneyama@yahoo.com.tw へ